



収録台本

2021年10月後半号



TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>廣川： 廣川陽子です。田村さん、お久しぶりです！</p> <p>田村： ホンマに久しぶりですね。「お元気ですか！市民のみなさん」って、久しぶりすぎて、どうやって言うんやったかな？ みたいな。</p> <p>廣川： どういうふうに過ごされてたんですか？</p> <p>田村： これがまた夏休みやったら旅行行ったとかお話ししたいとこですけど、案外何もしてない。今回の緊急事態宣言とかは、外食は家族で個室でしかしてないですけど、仕事はあるし。</p> <p>廣川： この番組も緊急事態宣言中は収録をお休みして、過去の再放送を中心にお届けしてまいりましたが今回から心機一転、新作を交えてお届けします。早速ですけど、吹田警察署からお知らせが届いているんですが、その声が「ええ声」なんです。</p> <p>田村： え？「ええ声」？</p> <p>廣川： 声の主が誰なのか、吹田警察署からのお知らせを聞いてみましょう。</p> <p>田村： え？誰？川島??</p>

浜村淳さん：

吹田市民のみなさん、こんにちは、浜村淳です。

今日は吹田警察と協力して、特殊詐欺を防ぐためにやってまいりました。

私がこれから申し上げることに、ぜひお耳を傾けてください。

現在、吹田市内では「還付金詐欺」という詐欺事件が次々に発生しています。

この「還付金詐欺」というのは、例えば向こうが「吹田市役所の職員です」と名乗ってみたりして、お宅の固定電話に電話がかかってくるんです。

そして、「医療費、つまり病院やお医者様にお支払いしたお金、

それが還付金といって返ってきます。近くの現金自動払い機、ATMで手続きをすればお金が返ってくるんです」、言葉巧みに最寄りのATMまであなたを誘い出して、ATMを操作させてお金を騙し取ってしまう。

こういう詐欺なんです。たくさんたくさん発生しております。

いくら便利な時代になっても、ATMで還付金は絶対に返ってはきません。

みなさん、このような怪しげな電話がかかってくれば、

相手の話を鵜呑みにせず、一旦電話を切ってください。

そして、ご家族や警察に相談してください。人間というものは、

「お金返ってきます」「儲かります」「お得ですよ」って言葉に弱いんです。

ついついその誘いに乗ってしまうことが多いんです。

「私は大丈夫！」「私は騙される訳がない」「私はしっかりしている」

そう思う、そんなあなたが被害に遭いやすいんです。

どうか騙されないようにしてください。

自分のお金は自分でしっかり守りましょう。吹田警察署からお知らせでした。

TIME	内容
	<p>廣川： 浜村淳さん、実は吹田市在住なんですよ。</p> <p>田村： あっ、そうですか。へえ～。</p> <p>廣川： 浜村さんは、吹田市内での特殊詐欺とか女性を対象とする犯罪の被害防止啓発音源の作成に協力されていると。</p> <p>田村： 浜村さんの声って、本当に骨身に沁みてるというか、耳に馴染み過ぎてるのでやっぱりスッと入ってきますよね。 本当に詐欺師が嫌いなんですよ。</p> <p>廣川： 私も大嫌いですよ。</p> <p>田村： 本当にそんなお金でご飯食べて美味しいのかな？っていう。 そういう環境で育ってきて、それが当たり前になって、 周りよりそれで稼いだことであるんですかね。心が満たされてしまうのかな。</p> <p>廣川： こういう被害が後を絶たなくて、吹田市内でも特殊詐欺被害が増えていて すごく増えていて、今年の8月時点で認知件数は44件。</p> <p>田村： 44件！？ うわ～、防げそうな数字や、頑張ったら。</p> <p>廣川： でも、昨年を上回るペースなんです、これ。</p> <p>田村： そうですか。でも2万件とか3万件とか言われたら、もうお手上げ感あるけど 44件なら頑張ったらなんとかなりそう。みんなで頑張りましょ。マジで。</p> <p>廣川： 浜村さんの声も、お力も頂きながら。</p>

田村：

吹田市は無理って思わせましょ。

廣川：

還付金はATMでは戻りませんので、お気をつけください。

田村：

還付金って自分で頑張ったお金が返ってくるんやもんな。
そりゃ、返してほしいと思うよね。

廣川：

そういう人の心理を巧みに利用してくるわけですよ。

田村：

嫌だね、本当に。嫌だ嫌だ。

廣川：

還付金はATMでは戻ってきません！気をつけてください。
何度も言いましょ。

田村：

言いましょ。本当にみんなで。

廣川：

そして、浜村さんの啓発音源ですけど、吹田警察署のホームページで公開しています。女性犯罪防止対策編というのも公開されていますので、皆さんもぜひ聞いてみてください。以上「吹田警察からのお知らせ」でした。

ワンポイント手話

TIME	内容
	<p>田村： 続いては特集です。</p> <p>廣川： 今回は大人気の「鉄道のまち吹田シリーズ」なんですけど、私、こないだこの鉄道シリーズで紹介した「ウエストエクスプレス銀河」たまたま見かけたんですよ。</p> <p>田村： え！嘘やん！街で？ええ！すげ～！</p> <p>廣川： めちゃくちゃ興奮しました。「あっ！アレや！」と思って。端から端まで舐めるように見てきました。</p> <p>田村： しっかり見てきた？ どうでした？生・銀河は？</p> <p>廣川： やっぱり艶が違う。紺色がすごくカッコ良かったですし、中身もちょっとこうやって覗かせていただきました。乗ることはもちろん遠慮しましたけど。覗いて「うわ～、ホンマに映像で見たやつと同じや～」って思って。</p> <p>田村： 紹介してたやつ生で見たら嬉しいよね。そりゃテンション上がるわ。</p> <p>廣川： そんな鉄道ファンじゃなくても楽しめる内容を今回もお届けいたします。どんな内容でしょうか？</p>

特集「JR西日本社員研修センター」

ナレーション

鉄道のまち吹田。市内には6つの鉄道と16の駅、さらにJR貨物機関区や吹田総合車両所、吹田貨物ターミナル駅などの交通の要があります。日本で鉄道が誕生してから今日まで吹田市は鉄道と共に発展してきたんですね。

わだ：

吹田の皆さん、田村さん、初めまして、こんにちは。わだ ともえです。これまでこの番組でも様々な“鉄道のまち吹田”をご紹介してきましたが、今回は知る人ぞ知るこちらの施設、JR西日本社員研修センターをご紹介します。

タイトル「鉄道のまち吹田 JR西日本社員研修センター」

ナレーション

吹田市片山町に今年の1月にリニューアルオープンしたのがこちら JR西日本社員研修センター。その歴史は古く、実は1943年大阪鉄道教習所 吹田分教所として開設されたものが現在まで引き継がれているんです。早速、広報の重村さんにお話を伺いました。

わだ：

こちら研修センターと伺ってきたのですが、具体的にはどんな研修をされているんですか？

重村さん：

鉄道を安全に運行するために必要な知識ですとか、技術を身につけることでプロフェッショナルを育成するための研修を行っている施設です。運転士とか車掌とか、駅の係員は想像しやすいかと思うんですけど、そのほかにも車両とか線路とか踏切とかを保守管理するような社員を含めて専門的な知識とか技術を身につけるといふようなところになっております。

わだ：

ということは、私たちが普段乗っているJR西日本の列車は全てこちらで研修を受けられた皆さんによって動かされているということですよね？

重村さん：

はい、そうですね。

わだ：

すごいですね。こちら今回リニューアルされたと同ったんですけども、どういうふうに変ったんですか？

重村さん：

机上の教育ではなかなか身につけにくいような、安全性の向上ですとか技術力の向上をしっかりと身につけられるような、実習設備が充実しました。

ナレーション

そう。こちらの研修センターの施設内には研修棟をはじめ、技術訓練棟、屋外実習施設、実習線などの様々な設備が整えられていて、実地に近い形での研修を受けることができます。

というのもJRは早朝から深夜まで運行しているので現場での実習が難しいんです。ですから、このような実践的な設備が必要なんですね。

そして、その中でも今回のリニューアルでも特に注目されているのがこちらの設備。

わだ：

うわぁ、凄い！部屋の中に電車がありますよ。ホームもありますね。駅ができてる！本物さながらのセットがありますけど、こういった研修を行うんですか？

久保さん：

こちらの研修センターに入所する運転士、車掌の研修に使用している教材です。JR 京都線、神戸線を主に走ります225系電車という車両を模擬した装置になっています。

わだ：

これ、ほとんど一緒なんですか？

久保さん：

そうですね。実際に走行している電車と同じ機器を使っておりまして、訓練の時でも実際の運転士、車掌の業務と同じ状況を再現することができます。

ナレーション

そう、こちらのシミュレーターは車掌と運転士が同時に訓練できるという優れたもの。ここで特別に研修風景を再現してもらいました。

ご覧ください！このシミュレーターでは、車掌さんには実際にホームや車内で見る景色、運転席では操作盤はもちろん景色や揺れ、傾きなどを体感できるようになっていて、実際の業務と同じように連携して訓練を進行することができます。

なんと対向からくる列車の風圧も感じることができるんですよ。

この訓練用のシナリオは200種類以上もあり通常の運行から、事故を想定したものまでこのシミュレーターで実習することが可能なんです。

わだ：

すごいですね！本物さながらですね。

阿彌さん：

そうですね。本当に本物さながらですので講習生たちも実際にやると、今まで勉強してきたことが、実際の設備でお客様が居たり環境が整っているので、緊張感のある身になる訓練ができています。

内田さん：

実物に近い環境とクラスメイトが見ているという緊張感の中で失敗も遠慮なくできる環境ですので、それが大いに学びに繋がっているかなと思います。

ナレーション

さて、ここで「あの仕事」を体験させていただきました。

わだ：

やります。

「今日もJR西日本をご利用くださりましてありがとうございます。
この電車は普通 神戸方面 西明石行きです。次は塚本、塚本です。
お出口は左側です。」

車掌さん、普段、結構特徴のあるナレーションされるじゃないですか。
アッってなんでなんですか？

阿彌さん：

あれはね、テレビの芸人さんとかの影響があるんで、そう思ってしまうかもしれないんですけど、我々の指導としては普通に喋ってお客様に伝えるという、聞き取りやすい発声を心がけて指導しています。

わだ：

そうなんですね。

ナレーション

この他にも地震などの非常時に、外国人乗客に向けたタブレットによる多言語での車内アナウンスの実習も行っているんです。これもまた時代のニーズに合わせた研修内容なんですね。

さて、次に案内してもらったのが「安全体感棟」です。
紹介してくれるのは鉄道安全考動館の鳥居さんです。

わだ：

こちらは先ほどとはまた違った施設になるんですね。

鳥居さん：

こちらは安全体感棟になります。鉄道の安全に関すること、また労働災害の実習設備を備えています。

わだ：

労働災害というのは、どういうものがあるんですか？

鳥居さん：

当社では重大な労働災害として、「感電」「墜落」、そして列車と接触してしまう「触車」という労働災害がございます。そういったものを防止するために、「見て・聞いて・感じる」をコンセプトにした体感できる施設として、こちらがございます。

ナレーション

そこで案内してもらったのが「労働災害学習室」。
どんな実習をするところなんでしょう？

わだ：

こちら、いろんな設備が用意されていますね。まずは何から？

鳥居さん：

そしたら、わださん、こちらから。こちらが、まず感電を体感する装置となっております。

わだ：

ちょっと静電気でも苦手なんですけど、そういう感じの電気ですよね？

鳥居さん：

ピリッとくるぐらいで、わださん大丈夫ですから、やってみましょう。

わだ：

はい。

ナレーション

3種類の電気の中で和田さんが選んだのは「中」。

わだ：

では「中」、参ります。

鳥居さん：

はい、勇気出して！

わだ：

(悲鳴)

鳥居さん：

どうでした？

わだ：

めっちゃ来ました。ビリビリしてます。

鳥居さん：

実際には、これは体に異常はないですけど、鉄道の架線というのは1500ボルトであるとか新幹線でいうと10000ボルトを超える電気を受けることがあるので、ルールを守ってきちんとした装備をつけて仕事をしていくということをここでもう一回見直そうという目的でやっています。

わだ：

なるほど。

ナレーション

次は墜落の危険性を体感してもらう設備。

電車の高さを見立てた4mの足場から、人の平均体重である60kgのサンドバックが落下した時の衝撃を体感してもらいます。

わだ：

こんな音するんですか！？

鳥居さん：

ですからこれを見て、ちゃんとした保護具をつけて墜落しないようにということをみんなでもう一度ここで再認識しているということになります。

ナレーション

そして最後に列車と接触する危険性を体感できるコーナーへ。

わだ：

この体感設備というのは、現場のどの部門で働く人に向けた安全喚起なんですか？

鳥居さん：

線路上で作業する、もしくは線路で近接したところで作業する係員がおりますので、主にそういった係員に対しての注意を喚起するという装置になります。

ナレーション

実際に走っている列車に触ることはできないので、同じ速度のバレーボールを正面から見て速度を感じてもらいます。

わだ：

うわぁ。

鳥居さん：

大丈夫でした？

わだ：

ちょっと待ってください、これ飛んでくるってわかっててもこの反応になりますね。めっちゃ怖いですね。今バレーボールでしたけど、これと同じスピードで列車が来るんですよね？

鳥居さん：

来ます。ですから、この怖さを味わってもらうための装置になります。

わだ：

本当に現場で働いてる皆さん、本当にありがとうございます。
ほんまに気をつけてくださいね、って声かけたくなりますね。

私たちは普段何気なく使っている列車なんですけど、働かれている社員の皆さんはこういった研修を通して日々知識や経験を磨き上げ続けられているんですね？

重村さん：

はい、そうですね。当社は2005年に福知山線列車事故という重大な事故を引き起こしてしまっております。そうした重大な事故を二度と起こさないという強い決意のもとで、私たちは日々安全教育ですとか技術の継承ですとかそういったところに取り組んでおります。
通常時の業務はもちろんなんですけれども、災害とか非常事態にも対応できる力が必要になってきます。そうしたことができる社員を育成していくと、そういった教育、研修を行っております。

わだ：

私たちの生活の要とも言える列車を支えている皆さんが、まず研修を受ける場所が吹田にあるというのが本当に誇らしいですね。

重村さん：

ありがとうございます。

プロフェッショナルの育成に引き続き取り組んで参りたいと思います。

わだ：

どうもありがとうございました。

重村さん：

ありがとうございました。

TIME	内容
	田村： すごい施設ですね。あんなのあるんですね。
	廣川： いろんな施設があって、いろんな研修があるんですね。
	田村： 思い切って失敗も出来るって言ってましたけど、失敗から学ぶことって絶対にありますけど、実践だと失敗できないのがね。 人の命を預かってますから、失敗できない職業ですから、 ああいうシミュレーターがあるっていうのは僕らも安心ですよ。
	廣川： この研修所は関西圏のみならず、西は山口県、北は石川県から研修に来る方もいるということで、敷地内には宿泊施設もあるんですね。
	田村： 本当にすごい施設なんですね。
	廣川： そして、こちらは社員向けの施設ですので、一般公開はありません。
	田村： あっ、無いんや。
	廣川： 今回、貴重映像。
	田村： かなり貴重なものを見れたんですね。
	廣川： 今回も鉄っちゃんのみなさんが喜んでくださるんじゃないかなと思いますが。
	田村： 吹田はすごいですね。本当に。
	廣川： これからも私たちのために、いろんなところで頑張ってくださいと思いますのでその感謝を忘れずに電車に乗りたいたいと思います。以上特集でした。

	<p>トリキリ①</p>	<p>吹田市からのお知らせ（コロナ関連情報） <u><廣川 ナレーション> ※事前収録</u></p> <p>1 「引き続き感染防止対策を」 大阪府域を対象に発出されていましたが、 9月30日をもって解除されましたが、 さらなる新規陽性者数を減少させるため、 引き続き感染防止対策をお願いします。 混雑している場所や時間を避けて少人数で行動してください。 都道府県間の移動の際は、感染防止対策を徹底してください。 4人以下でのマスク会食を徹底してください。</p> <p>「ワクチン接種希望者は10月中に1回目の接種を」 吹田市では市で定める接種実施計画通り、 11月末までに希望者への接種が完了する見込みです。 11月以降は2回目接種がメインとなり、 接種体制を縮小する予定です。 接種をご希望の方は10月中に1回目接種をお願いします。 医療機関で接種を受ける個別接種にて、ご予約をお願いします。</p> <p>予約可能な医療機関は厚労省のコロナワクチンナビから 検索可能です。 また、市コールセンターでもコロナワクチンナビ情報をもとに ご案内します。</p> <p>市コールセンターの電話番号は、フリーダイヤル 0120-210-750 受付時間は午前9時～午後8時まで、 土曜・日曜・祝日も対応しています。 市コールセンターでは、ワクチン接種に関するご相談も 受け付けています。</p> <p>また、国や府が実施する大規模接種会場等でも ワクチン接種を行っている場合があります。 詳しくは防衛省や大阪府のホームページをご確認ください。</p>
--	--------------	--

TIME	内容
	<p>田村： 続いては、市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>廣川： 今回は防災に関する話題です。</p>
	<p><u>ナレーション（廣川）</u> 9月21日、豊津第一小学校で、防災に関する特別授業が行われました。</p> <p>特別授業のタイトルは「ふたりのヒロイン伝説」。 今から87年前の1934年9月21日、室戸台風で同校の校舎が倒壊し、51人の児童と2人の先生が犠牲になった実話が基となっています。 同校ではこの日を忘れないために9月21日を「風災記念日」としています。</p> <p>全校児童に向け、放送で授業を行ったのは、校長の有明先生です。</p> <p><有明校長インタビュー> 校長室に仏壇があると聞いて凄い恐れてたんですけど、実際そこで頑張ってた先生は若い先生やってことがわかって、この子らを応援したいなと思っていろんなことを調べてみました。</p> <p><u>ナレーション</u> ヒロイン伝説の主人公は、校舎の倒壊で犠牲になった2人の先生、横山仁和子さんと吉岡藤子さん。 二人は身を挺して、8人の児童の命を救っていたのです。</p> <p><有明校長インタビュー> 仁和子さんは京都女子大出身ということで、行ったらいろいろ教えてくれてレリーフが残ってるということがわかりました。 ただ、藤子先生は山口出身で、母校とかに聞くといろんなものが日本中に残っているよと教えてもらって、電話とかで調べたら、写真とかデータで送ってくれてみんなすごく協力的でした。</p> <p><u>ナレーション</u> この特別授業のために、独自で取材を行った有明先生は、取材を進める中である感情を抱いていました。</p>

TIME	内容
	<p><有明校長インタビュー> 去年から学校は子ども達の命を守るのに必死で、消毒したり手洗いしたり。3時間勉強して給食食べたら「前半の人帰り～」って、後半の子が来たらすぐに給食を食べて3時間勉強するのに、先生は朝の8時から夕方5時まで休憩無しでずっと二交代でやってたんで、その時の先生が必死で子どもたちのためにやってるのを見たら、このことと被るなと思って、いろんなことを調べて今日子どもたちに報告の朝礼をしました。</p> <p><u>ナレーション</u> 特別授業を終え、児童は？</p> <p><児童 インタビュー> 先生たちが一年生の人や三年生の人を守って、凄いなと思いました。</p> <p>訓練とかはふざけずにちゃんとやったほうが、命が助かりやすいんだなと思いました。</p> <p><有明校長インタビュー> 地域の人でも87年前の事やから、もし生きてはってもその人らも90歳以上の高齢で、その子供さんとかが60～70ぐらいかな。だんだんそのことを知ってる人が少なくなってきたので、このことを子ども達に毎年伝えて、「うちの学校ではこうやって二人の若い先生が子どもの命を守ったんやで」ってことを伝えていきたいと思っています。</p>

TIME	内容
	<p>廣川： これまでもこの事故を題材にした防災教育はおこなわれていたんですが、児童や先生が犠牲になったということだけが伝えられていて、2人の先生が8人の児童を救ったということは知られてなかったんですって。</p> <p>田村： へえ～。そうなんですね。</p> <p>廣川： 校長が今年の4月に赴任して、それまではこの事故についてはほとんど知らなかったんだけど、調べていく中でまだ知られていないことがたくさんあるということに気づかれて、お休みの日に校長自らがいろんなところへ出向いて取材をされたと。</p> <p>田村： すごい人じゃないですか。 動きはる人なんでしょうね。形にできる人なんでしょうね。</p> <p>廣川： どうやったら子どもたちに上手に伝わるかってことも考えながらやっていらっしゃるんでしょうね。伝わってきましたね。 どうして台風の中を児童たちが登校してきたのかって、ちょっと疑問じゃないですか？</p> <p>田村： 確かに警報とか出てたら変わるんじゃないかと思いますけどね。</p> <p>廣川： 当時は正確に天気を予測するのが難しかったですよね。</p> <p>田村： 今よりもね。</p> <p>廣川： 休校のルールも決まっていなかったというのも合わさって多くの児童、そして先生方が犠牲になってしまったということなんですよ。</p>

田村：

なるほど。過去に実際に起きた出来事から防災意識を高めたりとか、身の安全を守ったりしていかないかね。

廣川：

児童が言ってましたけど、防災訓練を真剣にうけないといけない、真面目にうけないといけないっていうのも伝わってましたもんね。

田村：

そうですね。感じる子は感じ取ってますよね。

廣川：

まだまだ台風シーズンですからね。今は当時と違って気象情報も入手しやすいですし、台風は事前に対策が取れますから今一度、防災への備えについて見直してみてください。

田村：

まだまだ10月いっぱいくらいまで台風きますからね。気をつけましょう。

廣川：

以上、吹田のトピックスでした。

田村：

ということで、今回の放送はここまでです。
それではまた次回お会いしましょう。さようなら。